

唐津関連事業 配置図



■ アクセス



- **福岡から**：地下鉄 博多駅～JR唐津駅 …… 約1時間30分
- **長崎から**：JR長崎駅～JR唐津駅 …… 約3時間
- **佐賀から**：JR佐賀駅～JR唐津駅 …… 約1時間

※唐津駅から車で約10分



- 高速道路利用の場合**：長崎自動車道／多久ICにて高速を降りる多久ICより…… 約1時間
- 福岡から都市高速利用の場合**：都市高速～福岡前原道路～二丈浜玉道路…… 約1時間

金子産業株式会社  kaneko  misui group

株式会社ニッスイまぐろ  ニッスイまぐろ  misui group

本 社／佐賀県唐津市中瀬通1番地8 TEL 0955(72)1116 (代表)



QRコードから
WEBサイトにアクセス

INVENTIVE CHALLENGE

海の幸から人々により良い食をお届けする

～海は生命の源～

漁業・養殖・加工・販売を通じて皆さまの食卓へ

海を愛して1世紀、私達は、海に生き、海と暮らし、海と共に育ってきました。

先人から引き継いだ、海の豊かな恵みに感謝し、

本当においしいものを、一人でも多くの人に喜んでもらいたいというおもいは、今も昔も変わりません。

これからも、安心、安全で魚の素材を活かしたおいしい食品を皆様の食卓へお届けしていきます。



ニッスイまぐろ nissui group



隠岐事業所

伊根事業所

対馬事業所

吉岐石田事業所

吉岐郷ノ浦事業所

鷹島栽培センター

唐津事業本部

五島奥浦事業所

佐世保黒島事業所

上浦事業所

五島若松事業所

甌島事業所

坊津事業所

喜入事業所

奄美事業所

北は京都伊根から南は奄美大島まで西日本の5府県にわたり、13のまぐろ養殖事業所とマダイなどの種苗生産を行う種苗センターを有しています。各養殖場は最適な育成環境にあり、海洋環境への負荷が小さい生簀等の設備で養殖生産を行っています。当社のまぐろ養殖は、旋網や一本釣りによる天然種苗の確保に始まり、餌はサバ・イワシ等の生餌類と生態系への負担が小さい、まぐろ用配合飼料を与えています。稚魚～育成～出荷までを生簀ごとに管理していることから、確実なトレーサビリティが確立されています。



ニッスイマグロ
はこちら

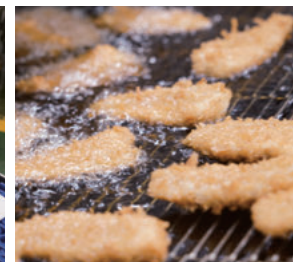
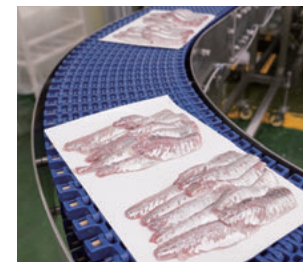
kaneko nissui group

食品部 Fish Processing

安心・安全・美味しい より良い“食”をお届けします。



食品部では前浜などで水揚げされるあじ・さばを中心に加工を行う生食用加工ライン、自社養殖本マグロを中心に加工を行うマグロ加工ライン、魚以外のフライなど様々なニーズにも対応するフライ加工ライン、この3つを軸として生産を行っています。



ISO22000認証を取得した工場では徹底した品質管理のもと、安心安全な製品を生産し全国の外食・量販店向けに製品を販売しております。



食品部はこちら

冷凍冷蔵部 Refrigeration

3つの冷蔵庫を有し、その能力は総冷蔵能力F1級15,000トン C3級冷蔵庫200トン凍結能力は150トン/日産 原魚調達と凍結・保管物流を担っています。

地球や環境に優しい自然冷媒の凍結機を導入し、長年培った魚の目利きをもって、鮮度・身質を吟味し唐津は基より、松浦・佐世保の事業所にて市場より仕入を行います。また、旋網業者より直接買付も実施しております。仕入れた鮮魚はサイズ別に加工用、餌料用に選別され自社食品工場、養殖場向けに供給されます。



養殖餌は、自社選別ラインで大中小の3段階に選別した後、およそ18時間を掛けて凍結し、15kgブロック状の凍結製品が出来上がります。



冷凍部はこちら

飼料部 Aquaculture Feed

自社養殖場での豊かな経験と実績を活かし、厳しい品質管理のもとに生産を行っています。

昭和62年自社養殖場で使用する配合飼料の生産を目的に、妙見工業団地に飼料工場を建設しました。魚粉、小麦粉、ビタミンなどを混合して生産する配合飼料は、自社養殖場での豊かな経験と実績を生かし、厳しい品質管理のもとに生産しております。平成13年には、待望のEP工場が竣工し、より栄養価が高く、高品質の飼料を提供できる体制が整備され、製販一体となり事業を推進しております。



飼料工場全景

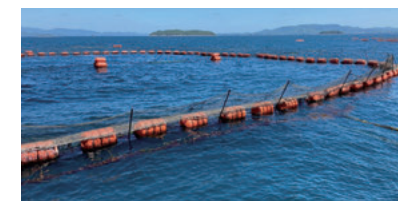


飼料部はこちら

環境理念と活動 サステナビリティ

環境理念

自然の恵みを受けて仕事をする当社においては、資源を大切に、地球や海に感謝の心を持って接することを企業姿勢の基本としています。私たちは、地球環境と調和・共生できるような、グローバルな事業活動を展開し、持続可能な社会の構築に、継続的に取り組みます。



環境共生を目指した事業活動の推進

海洋環境保全の一環として

従来、国内の海面養殖ではナイロンカバーで包まれた発泡スチロール製フロートが多く使われてきましたが、わたしたちはこのナイロンカバーが他のフロート類と比べて強度の面で劣り、万が一カバーが破れてしまった場合、中の発泡スチロール（ポリスチレン）が砕け、海洋へ流出してしまうリスクがあることを問題視しました。このため、2024年度末までに、それらの使用をすべて止め、より海洋への流出リスクの低いフロートへの切り替えを完了させることを決定しました。グループ全体より海洋流出リスクの低い漁具使用の検討を進め、事業を通して海洋プラスチック問題の改善に取り組んでいきます。

